神戸市立花山小学校　学校評価報告書

学校づくりの目標	人がつながり　共につくる　みんなの学校

	内容	重点的な取組み	評点 （４段階）	特記事項 （学校自己評価）	関係者評価 （学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等）	学校自己評価、関係者評価を踏まえた 次年度の重点的な取組みの案
育てたい子供の姿	やる気　えがお　つながる心					
	自ら考え、行動できる子	「自分から進んで考え、伝え合い、学びを高めていく児童の育成」をテーマとした研修に取り組む	4	低中高の３つのグループに分かれて授業研究を行い、教師の授業力の向上とともに児童の学力の向上を図ることができた。	・学校の先生がいかに楽しそうな顔をして仕事をしているかが大事であると思う。 ・生徒指導のノウハウも若手の先生が苦慮していることと思う。いかに学校全体で丁寧に取り組んでいくかが大切だと思う。 ・体力調査での、課題に向けた取り組みの必要性がわかった。 ・じぶん学習については、保護者もわかっていないところが多い。保護者に対しても、考え方ややり方をしどうしてはどうか。 ・地域同士の横のつながりも大切。地域としてできるところ、つながりづくりは活発にしていきたい。 ・放課後の問題については、保護者や地域が対応するべき。ただ、どこに連絡したらいいのかを伝えてもらえると、学校への連絡は減るのではないか。	「主体的な学び」に重点を置き、「教科学習」「GIGA端末を使った学習」」「じぶん学習」の３グループで研修を進める。 チーム担任制・教科担任制を推進する。
	自ら考え、行動できる子	ICT機器を効果的に活用した学習の推進	4	学習活動でSkyMenuやMicrosoft Teamsなどのソフトを活用し、児童がICT機器を活用する素地を養うことができた。		「GIGA端末を使った学習」の研修グループが中心となって、効果的に活用した学習の研究をする。
	自ら考え、行動できる子	自分からあいさつができる子を育てる	3	代表委員会の児童を中心に朝のあいさつ運動をしたり、「今週のめあて」として、どの学年でも気持ちのよいあいさつができるように意識して取り組んだ。		代表委員会が中心となり、あいさつ運動を推進していく。
	自ら考え、行動できる子	「じぶん学習」を推進する	3	児童の状況に応じたステップの中で個の向上を求めて各学年で取り組んだ。その進捗状況を部会を通して共有し、次年度へ向けた改善策を練っている段階である。		「じぶん学習」の研修グループが中心となり、自主的に取り組める「じぶん学習」の研修を進める。
	自分のよさを大切にできる子	基礎基本の学力の定着に力を入れる	3	基礎学習の方法をより定着させるために漢字・計算のドリルや算数などで使用する方眼ノートなどを全学年で統一し、朝の学習の時間で国語の基礎学習を行った。		朝学習では引き続き国語の基礎学習を続けていく。学力定着度調査の振り返りを行い、検証結果を日々の授業に活かす。
	自分のよさを大切にできる子	学習理解が確かになるような、丁寧な学習のサポートをする	3	支援のシフトを共有するための表や連絡ファイルを活用し、様々な支援を効率良く配置した。また、放課後学習では個に応じた学習内容をもとに個別指導を行った。		校内支援委員会、放課後学習など、様々なグループが連携して推進していく。
	自分のよさを大切にできる子	体力づくりを積極的に行う	3	新体力テスト測定に向けて体の動かし方の練習をする機会を持つ。異学年との外遊びを通して、運動好きな児童を増やす。		運動委員会による運動遊びの呼びかけや集会委員会による長縄大会など、楽しく運動に親しむことのできる活動を企画していく。
	優しい心で他者とつながる子	いじめが起きない環境づくりに取り組む	3	教室環境、言語環境を整えることの共通理解やいじめアンケートの実施、いじめ対策委員会の定期開催や心の安定を生むわかりやすい授業の研鑽		生徒指導部会、いじめ対策委員会が中心となり、教室環境や人間関係を整えることを推進していく。
	優しい心で他者とつながる子	思いやりの心を育むための工夫を行う	3	「子どもの権利」に関する学習を各学年で行い、お互いの権利を尊重する心を育んだ。		多様性に関する学習に進んで取り組み、様々な人権課題を意識した学級経営を推進する。 「ことばのたからばこ」を活用し、誰もが過ごしやすい学校を目指していく。
全市的に推進すべきこと	①いじめ防止対策に関する取組み	生徒指導部会などで児童の情報を共有し、チームで対応にあたる	3	教室環境、言語環境を整えることの共通理解やいじめアンケートの実施、いじめ対策委員会の定期開催や心の安定を生むわかりやすい授業の研鑽。生徒指導だよりの継続した発行で教師の意識向上を行った。	・４０人の子どもに対しての先生の数を考えると、個 別ニーズの声が大きくなっているように感じる。 ・勤務時間の何パーセントを授業の準備に充てられて いるのかと思う。 ・すぐーるを活用する反面、アンケート回答率がさがっているということもあるのではないか。すぐー るの活用をもっと促していけたら。	生徒指導部会や職員連絡などで児童の情報を細かに共有し、問題があればチームで対応する。
	②不登校支援の取組み	月一度開催される生徒指導部会で対応を話し合う	3	養護教諭や担任教諭、SC,総務や管理職など、様々な立場の先生と情報を共有し、実際に当該児童とかかわりをもち、中期計画を立てながら、ステップアップしていけるような対策を考え実行し、修正したりと取り組んだ。		生徒指導部会、関係教員、SC、不登校支援員など複数で連携して問題に対応する。 サポートルームを積極的に活用する。
	③教職員の業務改善	退勤時刻の意識強化を進める。 会議時間の短縮に努める。	3	職員の情報共有をPCで行うように変更し、時間と場所の制約がなくなる工夫を行った。ペーパーレスを進める。「あゆみ」の内容の変更し業務を削減した。		情報共有のためにPCを活用することをさらに進め、会議の縮小を図る。
	④「すぐ-る」の活用、ホームページにおける情報発信	ホームページの更新頻度を増やす。 すぐーるで、各種便りを配信したりアンケート配信したりペーパーレス化をすすめる。	3	ホームページはほぼ毎日子供たちの様子を発信することで学校の情報を伝えるようにした。すぐーるも保健だよりや食育だよりを配信にしたり、個別懇談会の予定、学校評価をアンケートで回答したりと活用を進めた。		ホームページの更新頻度を高め、保護者への情報発信の場として活用していく。すぐーるのアンケート機能を積極的に活用する。
	⑤学校生活のルールや決まり（校則など）について	校則の意味について考え、内容を見直す。	3	代表委員会の活動として、校則の見直しをしたり、一つ一つの校則の意味を考え、よりよい学校生活の送り方について考えたりした。		学校の決まりは定期的に見直しの機会を設け、よりよい学校生活のために必要なものに精選していく。

【評点】４：十分達成できた　３：おおむね達成できた　２：どちらかと言えば課題がある　１：課題がある